

## 知床半島におけるオホーツク海海氷勢力と気象条件

## Relation between Sea Ice Period and Meteorological Conditions in Coastal Region of Sea of Okhotsk around Shiretoko Peninsula

# 小杉 知史 [1]; 高橋 修平 [2]; 堀 彰 [3]

# Tomofumi Kosugi[1]; Shuhei Takahashi[2]; Akira Hori[3]

[1] 北見工大・工・土木; [2] 北見工大; [3] 北見工大

[1] Civil Engineering, Kitami Institute of Technology; [2] Kitami Institute of Technology; [3] KIT

2005年7月、知床半島はユネスコ世界自然遺産に登録された。この登録された理由は、知床半島西部が北半球で最南端の海氷接岸地域であり、海氷が接岸することによってもたらされる特徴的な自然環境がユネスコに評価されたためである。

近年の地球温暖化等の気候変動に伴う自然環境の変化により、海氷が接岸する時期や海氷の量に変化が生じることが予想される。知床半島は樺太の東から南下して流れてくる海氷をせき止めていると言われており、海氷が接岸している日数はオホーツク海北海道沿岸部では最も多い。そのため海氷による影響を最も受けやすい地域であると考えられる。

本論文では、海上保安庁によって作成された「海氷速報図」を基に作成した海氷勢力図を利用し、知床半島西部のウトロを中心としたオホーツク海南西部における海氷と気象条件の関係を示す。

まとめは以下の通りである。

- 1) 1-3月の海氷勢力は北海道沿岸部を南下するほど大きい。
- 2) 海氷勢力と沿岸の4地点の平均気温は、どの地点も良い負の相関が取れており、南ほど傾き（絶対値）が大きい。
- 3) ウトロの1-3月の平均気温が3.3℃上昇すると、沿岸に海氷が流れて来なくなる。
- 4) ウトロ沖における海氷は、接近には北西風が大きく影響し、離反には南東風、南西風、気温上昇が影響している。
- 5) 全域海氷勢力が大きいほど気温や風によって海氷密接度が変動しにくい。